

(大正五年四月六日第三種郵便物認可) 昭和十一年六月廿五日印刷納本(毎月一回一日發行)

哲 學 研 究

第 二 十 一 卷 第 七 冊

第 二 百 四 十 四 號

昭和十一年七月一日發行



性 と 血 (承前)

—— 原本的人間及び原本的社會の
實在的諸要素 ——

文學士 高山岩男

存在の判斷的性格と判斷の存在的性格

—— 知覺論序論 ——

文學士 土井虎賀壽

物心の關係に就いて

工學博士 上田大助

雜 錄

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內 部

京 都 哲 學 會

京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
 - 一、毎年公開講演會ヲ開ク
 - 一、毎月一回哲學研究ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得ルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士		
天野貞祐	岩井勝二郎	植田壽藏	臼井二尙	小島祐馬	木村素衛	九鬼周造	田邊元	中井正一	西谷啓治	野上俊夫	羽溪了諦	波多野精一	服部英次郎	本田義英	山内得立

前 號 目 次

<p>超數學の本質に就て……………</p> <p style="text-align: right;">理學士 三田博雄 譯</p>	<p>世界觀の社會學（承前）……………</p> <p style="text-align: right;">文學士 樺 俊 雄</p>	<p>性 と 血……………</p> <p style="text-align: center;">—— 原本的人間及び原本的社會の實在的諸要素 ——</p> <p style="text-align: right;">文學士 高山岩男</p>
--	---	---

告 會

一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
 二、會員ニテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
 三、會費ハ振替口座大阪三〇六六三番 内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
 四、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學
文學部内 京都哲學會

定 規 文 註

◆ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候
 ◆ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候
 ◆ 振替貯金にて御送金の際は(振替大阪三九三一番東京三九三一番)内外出版印刷株式會社宛に願上候
 ◆ 前金切れの場合に帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
 ◆ 特に請求書及領收書等必要する場合は郵券差錢御送付下され度候

價 定

冊	數	定	價	一	郵	稅
一册	册	金	四拾	錢	金	壹錢
六册	册	金	貳圓四拾	錢	不	申
十二册	册	金	四圓八拾	錢	不	申

廣告料

一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

昭和十一年六月廿五日印刷納本
 昭和十一年七月一日發 行 第二百四十四號 第七十一號

京都帝國大學文學部内

編輯者 京都哲學會

右代表者 服部英次郎

發行者 須磨勘兵衛

印刷者 須磨勘兵衛

印刷所 内外出版印刷株式會社

發行所

京都市下京區西洞院七條南 内外出版印刷株式會社

振替口座 大阪三二九五番 東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南入
 販賣所 京都市日本橋區室町四丁目 内外出版印刷株式會社

賣捌所 (東京) 寶文館 東海堂
 (大阪) 寶文館 上田屋
 (神戸) 寶文館 盛文社
 (京都) 共盛社 大瀬書店 參文社

不許複製
 禁轉載

プラトン

(西哲叢書
第二編)

長澤 信壽 著

プラトン以後の哲學の歴史は、ある意味で、各時代の哲學者がプラトン哲學に對してとつた態度の歴史であつた。人は如何なる出發點から思索を始めるにもせよ、根源的に思惟の道を溯る時、プラトンが開いた道に想到するのが常であつた。然し我々が先づ爲すべきことは、何よりもプラトン哲學をプラトンその人の立場から正しく理解することではなければならぬ。本書はかゝる見地からプラトン哲學の全貌を描いて殆ど剩す所がない。殊に、今日我々に新しい問題を提出する後期の思想について明快犀利なる分析が展開されてゐることなど、プラトン研究家のみならず哲學に關心する一般教養人にとつて必讀の書である。

頁 三四五
價 一・三〇
四六判クロス製
税 一・四

ギンケルマン

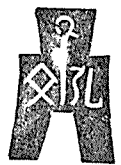
(西哲叢書
第十三編)

井島 勉 著

ギンケルマンは希臘美術の最初にして最大の解説者であり、又近世美學の發端を飾る偉大な思想家である。更にレッシングやゲーテの代表する獨逸古典精神の輝かしい先覺でもあつた。即ち歴史を超えて歴史の中に生きた尊敬すべき美學者である。人はその思想の理解によつて美學的及び藝術史的見地に基く藝術の解明に重要な指針を得るであらう。然かも奇妙にも我國においては未だその研究の公にされしものあるを知らない。本書はギンケルマンの核心を傳へる信賴すべき唯一の文献として、汎く珍重さるべきものであらう。

頁 二八五
價 一・三〇
挿畫 三葉
税 一・四

弘文堂



東京 神田区 駿河台 三丁目 振興社
東京 都部町 丸太町 一丁目 振興社
東京 五反田 一丁目 振興社
東京 三軒 五反田 一丁目 振興社

(大正五年四月六日)昭和十一年六月廿五日印刷納本(毎月一回)
第三種郵便物認可(昭和十一年七月一日發行)

哲學研究 第二百四十四號 定價金四拾錢

郵税金壹錢